

2004年
4月1日発行

れん れん

わやがわ 連・連

第6号

[市民活動センターニュース]

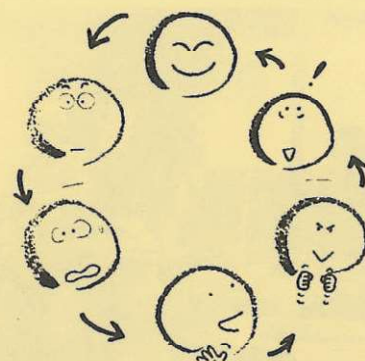
(連係・連携・連結・連衡・連鎖・連作・連接・連帯・連盟・連絡)

発行：寝屋川市立市民活動センター

〒572-0848 寝屋川市桑町4-1-1 TEL 072-812-1116 FAX 072-812-1118



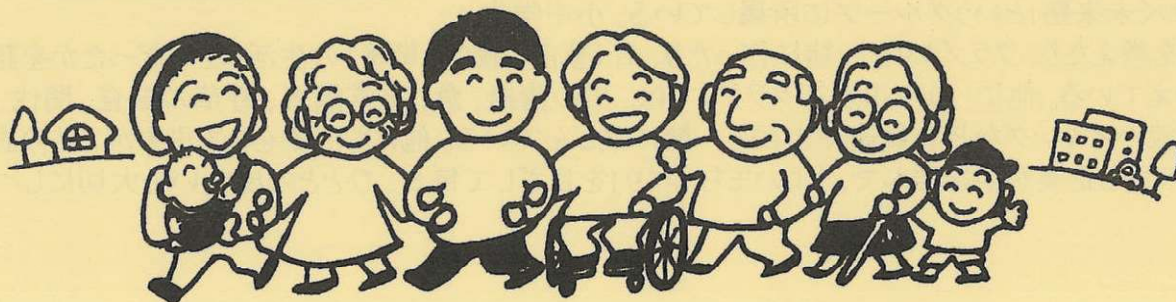
つながってたすけあいが循環



去る2月10日(火)と3月16日(火)の2日間にわたって市民活動センターでは「地域通貨でまちづくりと活性化」と題して勉強会をおこないました。ボランティアは慈善の気持ちで発生するもの、だから無償は当たり前？

でもお願いする側の気持ちは複雑です。「ちょっとしたことを頼みたいけど、お礼はどうしたらよいの……」「とても助かりました……お礼をしたいのですが……」こんな普段の助け合いのところに少しでも報いる方法が地域にあれば、もっと気軽に頼めるのではないのでしょうか？そしてそれが地域にボランティアのところが広がるきっかけになればもっといい……。商品券のような通貨で人と人がサービスを交換する仕組みをつくり、地域経済活性化と相互扶助が一緒になって、市民同志のころ

ふれあうまちづくりで寝屋川市をもっと元気にしよう、これが地域通貨の発想です。社会が抱える問題を企業や行政がお金を出して解決するという時代は終わり、みんなの知恵で解決していかなければならない時代になってきました。幸い「ボランティア活動の場をもっと広げたい」、「何かボランティアを始めたい」という人たちはかなりいらっしやいます。そういった人たちの声に応えるように今、行政も市民協働や市民参加をもとめています。地域通貨の仕組みがあれば税金をあまり使わず地域住民のみなさんの協力も得られやすく、ボランティア活動の活発化も期待されます。利用メリット、発行管理問題、商店、金融機関の協力、まだまだ課題はいっぱいありますが、まず、地域通貨の可能性をさぐってみるのもひとつの方法ではないでしょうか。



❖ 「わたしとボランティアとの出会いを語る」 ❖

H16年2月25日(水)pm1:00~3:00 交流会

(参加者 22名)

4人のパネラーのみなさんにお話を伺いました。

NPO法人 子ネット・ねやがわ

代表:古賀裕子氏

初本町公園を美しく育てる会、水辺クラブ

佐々木雄二氏

ふれあいプラザ香里

代表:松岡昌彦氏

ふれあい独楽

代表:織島匡子氏



NPO法人 子ネット・ねやがわ代表:古賀裕子氏

あったか保育園という預かり保育の場(一時と長期)。出前保育やその他よろずの子育て支援活動の事業を展開。立ち上げスタッフ13名と会員18名の31名で活動。年会費3000円、賛助会員40名。昔はみんなで子育てをした時代が長かったが、現在は母親が1人で育児を背負い込んでいる人も多い。そんな若いママさんの力になって、ストレスが少しでも解消できたら・・・と。今、スタッフは無償で働いているが、その内、自分で働いたお金をいくらかでも手にして、そのお金を使うことを楽しみたい。行政がパンクしかかっている時、ボランティアや市民が地域で目的をもって活動に参加し、いろんな力がわいてきたら、元気なまちづくりができるのではないかと。コミュニティビジネスとしても末永く地域に根ざしていきたい。事業の方向としては将来、活動センターでママさん相手の活動(料理・教育など)ができたら嬉しい。

初本町公園を美しく育てる会、水辺クラブ:佐々木雄二氏

ボランティアは基本的には、やっていて楽しくなければならぬ。いやいや止めることができず、引きずってはいけません。長つづきできないし、相手に対して申し訳ないしこの偽装行為がいけないのである。早朝の(夏は5:00すぎ、冬は6:00すぎ)清掃は健康のバロメーターになっているのは事実です。

他に、「わくわく未来塾」というグループに所属している。小中学生に伝承遊びを教えたり、ワラゾウリを一緒に作ったり、昔(戦前、戦中、戦後)の生活はどうだったかを語り部として伝えている。他に「ねや川水辺クラブ」では、川の清掃、魚、水質調査、野草の調査、間伐、ねや川の源流ハイキングなど会員達や市民と一緒に楽しんでいる。他にも活動はしていますが、私の思いは行政と市民と企業が手を結んで、「よいまちづくり」を目ざして毎日、ひととの出会いを大切にしたい。



つ、寝屋川のまちに住んでよかったと思えるよう、一步一步とお手伝いをさせてもらえることが60余年、ねや川に住んできたお返しであると思っています。

ふれあいプラザ香里 代表:松岡昌彦氏

きっかけは、定年後「余生をどう過ごすか」「自分の居場所は」「濡れ落ち葉にならないためには」からです。決して人のためにとか社会のためにと崇高な気持ちではなく、自分探しという全く個人的動機がスタートです。まず、シルバーアドバイザー養成講座の「地域活動コーディネーター」を受講しながら、寝屋川市文化創造委員会、ねやがわ文化会議などに参加して居場所を探しました。



現在は歴史街道倶楽部の会員として、司馬遼太郎の「街道をゆく」のフォーラムを主宰して、司馬さんの足跡を歩いています。「ふれあいプラザ香里」は寝屋川市で初めて市民に運営を委ねられた施設で、展示、自由図書、淡水魚の3コーナーを中心に、市民の交流の場、市民活動の発展を促進することを目的とした施設です。現在38名のボランティアが世話人として日々の運営に携わっております。スタッフの対応にはそれぞれ温度差がありますが、市民の皆さんがちょっと立ち寄って何かを得られるような場所にしたいという熱い思いで、スタッフ自身が企画して活動の輪を広げることもおこなっています。一度足を運んでみてください。

「自分の居場所探し」をするとき、3つの世界が考えられます。1つは一人称の世界です。これは趣味など自分の好きなことを一人でする世界。2つ目は二人称の世界で、夫婦や友達など気の合ったもの同志でする世界。3つ目の三人称の世界は、第三者、社会との関わりのある世界で、ボランティアの世界はこの3つ目に入ります。どの世界に身を置くかは、その人の価値基準によりますが、人生がより豊かになるのは第3の世界ではないでしょうか。

余談ですが、私の信条は<いいかげん>になることです。

チャランポランとか、デタラメとか、いいかげんな人間とかいうのではなく、湯加減のよい風呂、飲み加減のよいお茶のように、程よいかげんに身を処するということです。プラスとマイナス、加減の妙味は至難の業ですが、<好い加減>でありたいと願っております。ちょっとチャランポランのところもあります

が…。

ふれあい独楽 代表:織島匡子氏

1980年、歌の好きな近所の主婦がコーラスグループを発足、楽しい会にしようと「独楽の会」と名づけ、その後、ボランティアグループ「ふれあい独楽」に発展した。学校PTAの歌唱指導に始まり、自主公演も年、数回開催、歌以外にも絵画や手芸作品グループもある。女性コーラスのコールグループ、60歳以上の高齢者で構成されたサファイヤコー



ラス・市内各地の幼稚園・保育所・小学校の児童からなる児童合唱団仲良し2・1というグループも併設。「自分を発見、自分を表現、自分を役立て」がモットー。メセナ(仏語で文化の意味)ボランティアグループとして北河内を中心に活動、音楽ヘルパーの称号を日本で初めてつけていただきました。コンサートやイベントを通して社会参加している。H9年の大阪パラリンピックのイベントにも参画した。現在、特養老人ホームや障害者施設への慰問活動、ふれあいプラザ香里、中央公民館、守口市立庭窪公民館などで歌の指導、あわせて月400人以上の方々とは音楽を通して関わらせていただいている。女性団体が長続きするコツは各人が各々の役割を把握し、尊重しあっていくこと。音楽はすべての人を前向きにし、理屈ぬきで、わたしたちの心を結んでくれます。年会費:3000円。

はじめてのボランティアさん 大集合！！

4月19日(月)

午後1:30～3:00

日頃ボランティアしたいが、何をしたいのかわからないと思っている皆さん、ベテランボランティアが経験談や実状報告をし、受け入れ側の皆さんには希望するボランティア像のありかたなどをざっくばらんにお話していただきます。



いきいき健康サロン

4月20日(火)

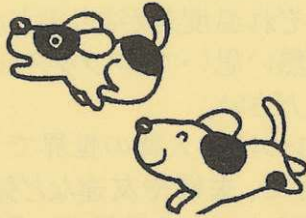
午後2:30～4:00

「上手な医者のかかり方」

お話:早川貫治医師

(寝屋川市医師会会長)

わかりやすいお話が人気です。



【助成金情報をお届けしています】

各種助成金情報を適宜入手しておりますので、当活動センターまで、ご相談ください。

ご利用の案内

開館時間・・・9:00～21:00

(日曜・祝日は9:00～17:30)

休館日・・・毎月第2月曜日及び

年末年始(12/29～1/3)

お問い合わせ・寝屋川市立市民活動センター

〒572-0848 寝屋川市秦町41-1

寝屋川市民会館4階

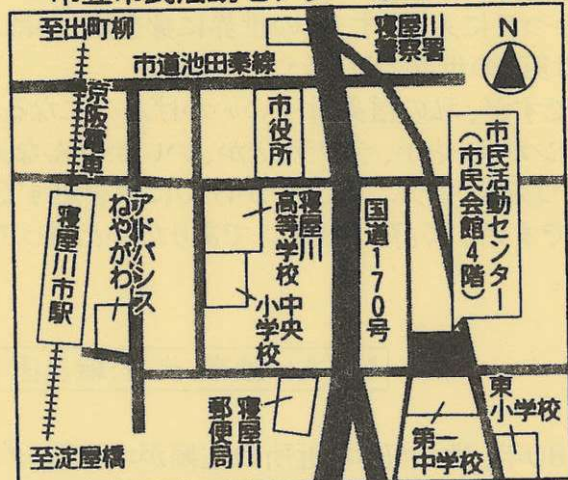
TEL:072-812-1116

FAX:072-812-1118

E-mail:smkd-center@orion.ocn.ne.jp

ホームページ:<http://2.ocn.ne.jp/~katudo/>

市立市民活動センターはここです



交通機関・京阪寝屋川市駅東口3番のりばから京阪バス太秦住宅行き寝屋川市民会館下車
・京阪寝屋川市駅から東へ徒歩15分

発行元:寝屋川市立市民活動センター

編集:「連連」編集スタッフ

【編集後記】

「ボランティア」という言葉は1969年にはじめて国語辞典にのり、以後、35年目になってカタカナ語認知度第3位にまで広く知りわたりました。だが、未だに「ボランティアって何・・・」「NPOって何・・・」という声が聞こえてきます。「ボランティア」にはいろんな考えや思いがあり特定の言葉で言い切ることができないのが実態です。これからも大いに議論することで形づくっていくものではないかと思えます。寝屋川市立市民活動センターでは共に考え合い、対話しながら答えを求めていきたいと思っています。

(編集子)

